

平成23年度看護学研究科 大阪市立大学重点研究報告  
「看護実践へのトランスレーショナル・リサーチ拠点」

Osaka City University, Concentrated Research Project Report:  
Translational Research Base for Nursing Practice

## I. 研究概要

看護学は看護実践に根ざした学問であり、医療や保健福祉の進化および少子高齢化など社会の変化にともなって、常に改善が求められる実践科学である。多様化している国民のニーズに対応できるように、既存の看護学の知識をさらに発展させ、新たな看護実践モデルやプログラム、ケアシステムを開発し、先駆的かつ創造的な研究成果をあげることが期待されている。

看護研究の成果を実践に活用する際には、研究機関の実験室レベルやコントロールされた条件下で立証されたエビデンスであっても、医療機関や施設、在宅ケア機関、行政等で容易に活用できないことがある。したがって、実際の療養者や住民、看護職を対象とした実践的な研究を行い、一般的に活用されるように工夫をする必要性があり、トランスレーショナル・リサーチを推進することは看護学の発展に、必要不可欠な事項である。

そこで、本研究では、看護実践のエビデンスを発信し、そのエビデンスを看護実践にトランスレイトするための方略を明らかにすることをめざしている。本報告書では、下記の各看護学専門領域において、系統的な文献検討、インタビューならびに疫学調査などの記述研究を行い、それらのデータをもとに看護実践モデルや看護ケアプログラムの開発プロセスを述べることを目的としている。

(文責 研究代表者 河野あゆみ)

## II. 構成

1. 在宅看護学分野：河野 あゆみ
2. 精神看護学分野：寶田 穂
3. 成育看護学分野：喜多 淳子
4. 感染・慢性看護学分野：秋原 志穂
5. 母性看護学分野：小山田 浩子